
あとすこしだけ。

茉由

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

あとすこしだけ。

【Nコード】

N9343V

【作者名】

茉由

【あらすじ】

主人公は不慮の事故で死んでしまう。
葬式が行われたが彼氏が来ない。

一人の男の子の気持ちを知ったり、彼氏の家に乗り込んだり……。

(前書き)

ぐちゃぐちゃ物語になりそうです

ああ！もうほんまムカつくわ！なにあいつ。うちが死んだのに葬式来んとかありえへんし。意味不明やろ。普通彼女が死んだら来るんちゃうん！？

もうあいつとは別れたる。ってゆうかももう死んだから終わりってゆうノリ？あいつそんな思ってたんかよ。何であんな奴好きになったんやろ。

でも何か事情があったんかもしれへんし。最後にくらい会いたかったな……。

もういいわ。忘れよ。天国に行く前にこんな暗いままはあかん。てか皆めっちゃ泣いてるやん。そんなにうち愛されてたんや……。天国には行きたいけど、母ちゃんと父ちゃんと兄ちゃんと離れたくないなあ。あ、千代ちゃんも来てくれてるやん。千代ちゃん、今までありがとう。友達になれてほんま良かった。

おお、黒田と白田も来てる。黒田めっちゃうちにちよっかいかけて来てたからなあ。仕返ししたろ。

「ふげっ！」

「いきなりなんやねんお前」

「今何かが俺の手え触った」

「何ふざけてんねん。静かにしろや」

「ふざけてへんって」

ぎやはは。怒られてやんのー。今までの仕返しじゃばけー。

葬式終わっちゃった。もうそろそろうち焼かれるんか。自分で自分を見るって変な気分やなあ。てか黒田また喋ってるし。どんだけ喋んねん。

「そういえば。健一來てへんくない？」

「ほんまや」

おいおい今その名前出すなよ。ほんまこいつ空気読まれへんな。

「なんでやねん！」

なんでやねんってなんでやねん！怒りたいのはこっちじゃボケ！

「そんなんやったら俺が付き合っとけば良かった」

「え！？お前好きやったん？」

「うん」

「マジで！？」

マジで！？全然気づかんかったし。

「俺、健一ん家行ってくるわ」

「今行くん！？」

ごめん黒田。ありがとうな。気持ちは受け取られへんけど、メツ
チャ嬉しいわ。うちも着いていっていい？

そういえば久しぶりに健一ん家来るな。やっぱ何回見てもでかい
な。こいつん家金持ちやから来にくいねん。しかもうちこいつのお
母さんに嫌われてるっばいし。むこうにはうちの事見えへんけど、
何か緊張するな。

「すみません。健一君いますか」

「申し訳ございません。健一様は外出禁止と奥様に言われておりま
して……」

やっぱり健一はお母さんになんか言われてるから来おへんのか。あ
のお婆はんの事やから、どうせうちの父ちゃんの会社潰すとかなん
やゆうたんやろうな。

「あー。そうゆうことでしたか。……うっせー！そんなん知らんわ
！」

何やこいつ。メツチャ切れてるやん。なんかやらかすんちゃうん！
？さすがにヤバイって。黒田が責められる必要ないもん……。

「ごちゅーこくどうも。心配せんでいいで。俺がしたしからやる
だけやから」

え！？こいつもしかしてうちの事見えてるん！？

「知らんかったつけ。俺メツチャ靈感強いで。しかも触れる。すごいやろ」

マジで！？そんなん知らんわ。じゃあはじめっから見えてたん！？ゆってや。

「仕返しじゃボケ」

ムカつくー！ー！！！！黒田のクセに何ゆってんねん！

「ほんじゃあ行くで！ほら手え握れ。お前走んの遅いやろ」

はい！？何するん！？てか遅くないし！！

「はいはい。最後やから。手だけでいいから握らせてや？……行くで！」

うわあああ！！ありえへんって。こんなでかい柵飛び越えるとかお前何もんやねん。それよりお前速すぎやって！ちよっと待ってや！引きずってる引きずってる。やから引きずってるって！おい聞けよ！無視すんなや！

「ほい、着いた。ここが健一の部屋やんな」

うん。ほんまに入るん？

「ここまで来たんやからなあ」

着いて来てや？うち一人なんか絶対無理！

「まあ俺も行くっちゃ行くけど。俺にのりうつれ」

了解です。……いや、無理やから。そんな技持ってへんから。

「いけるって。はよろ」

はよろってゆわれても。のりうつるって黒田ん中に入ればいいんやんな。

「おい、ちよっと待て。お前まさか……。痛い痛い痛い痛い！」
じっとしてや。入られへんてば。

「なんでケツやねん！一回出ろ。これ一応恋愛小説やで！？お前ヒロインですよ！？痛い痛い痛い痛い！」

待って。もうちよっとやから。

「痛い痛い痛い痛い！あ、そこあんま触んな！うんこでるうんこでる！」

ほっ、入ったで。

「全然『ほ』じゃないから。まあいいわ。ほんじゃあ行くで」
うん……。

「誰？」

「く、黒田でーす」

おっしゃ、いけてるいけてる。そのまま続けろ。

「う、うん」

「何で来たん。葬式行ってたんちゃうん」

「そうやけど……」

「そんならあいつに行かれへんくてゴメンって伝えといて」

「……」

「もしかしてもう葬式終わったん？」

「……」

「何で黙ってん？」

「……自分でゆえや」

「は？」

「そんなん自分でゆえや！」

ちよっ！お前俺の顔で泣くなって……。

「どうゆう意味？」

「別にもう、うちのこと好きちゃうんかもしれへん。それやったら
そうゆってくれればいいし。でもまだ好きなんやったら自分で言い
に来いや！母ちゃん優先とか何？マザコンですか！？」

「もしかしてお前……」

「あー、もう！ほんまは会ったら『うちのこととは忘れて、他の人と
付き合ったり、結婚したり。ちゃんと幸せになれよ』ってゆおうと
思ってたのに……。今の健一ほんまムカつく。健一は優しすぎんね
ん。でも優しいのと中途半端なんはちやうで！」

「ごめん……」

ギャー！俺の体に抱きつくなや！！！

「行かれへんかってごめん。中途半端でごめん。お前のゆうとうりや。でも、お前のこと好きちやうってゆうのは間違ってる。ほんまに好きやった。今もそれはかわらへん」

「……うん」

良かったな。俺は納得出来んけどな。男と抱きつくとか……。じゃあ俺の体から出ろ。

「分かった。ありがとう黒田」

（まあ、好きな奴のためやからな）

「まだあいつ焼かれてへんかな」

「分からん。行って見るか？」

「ああ」

「おっしや、行くぞ！」

俺は毎週、墓参りに行っている。

あいつが好きやった花を添えて、手をあわせる。

「自分のこと忘れて。とかゆってたけど、まだ俺には無理みたい。

やから、もう少しだけ俺の彼女でおってくれへん？」

(後書き)

やっぱりぐちゃぐちゃ。

関西弁が暑苦しくなってしまったかも……。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9343v/>

あとすこしだけ。

2011年10月9日12時38分発行